より良い体育授業に関する研究
～教師と子どもの視点に着目して～

青木　優也（生涯スポーツ学科　学校スポーツコース）
指導教員　柴田　俊和

キーワード：より良い体育授業　動機づけ　達成感　苦手意識

１．緒言

私は、運動は得意だが体育授業のたいていの技能を簡単にこなすことができ、体育の授業は退屈に感じて、意欲があまり湧かなかった。

一人ひとりを徹底的に大切にし、どんな子もないがしろにしない授業を行うためには、苦手な子のみならず得意な子もカバーすべきであると考えた。

本研究では、運動が得意な子と苦手な子の両者を伸ばす事ができるような、より良い体育授業とは一体どのような視点でどのように行っていけば良いのかを、教師と子ども双方向の視点から検討する。そして、明らかになった教師の考えと、児童、生徒の要望をもとに体育授業の問題点を捉え、更なる工夫をすることを目的とする。

２．研究の方法

アンケート調査の実施

＜調査対象者＞

京都府、大分県の小学生 89 人

滋賀県の中学生 101 人

京都府、滋賀県の高校生 308 人

京都府、滋賀県の体育教師 12 人

＜調査の目的＞

教師側と子ども側の意見をもとに、教師からの一方向的な体育授業から、教師と子ども双方向的な体育授業を行うためには、どのような指導や工夫をするべきか考察するための資料とする。

３．結果と考察

アンケートの結果から、子どものニーズに対し、教師はおおよそのニーズを把握していることが分かった。しかし、子どものニーズは多様であるとともに運動能力もバラバラであるため、分かっていても実現することが難しいようである。また、暑さや寒さ、肉体的な疲労や汗をかくことは体育において避けられず、これらの問題を解決するのは難しい。

４．まとめ

本研究では､教師と子ども両方の視点から、よりよい体育授業にするための８つの条件を導き出した。これらの条件を満たせば満たすほど、よりよい体育授業になっていくと考えるが、子どもの実態の違いや学校の設備の不備、教師不足や教師の力量不足によって項目を満たすことができるかどうか左右されることも多いかもしれない。

よりよい体育授業を行うためには、８つの条件を満たすことができるよう、教師が努力することはもちろんのこと､学校設備の充実、教師不足の解消、教師教育の改善等、子どもの教育環境を整えていくことが必要だと考える。

参考文献

長谷川悦示(2002)：体育嫌いを生まないための教師の心得と方策　体育科教育 50(3)：pp. 22-27

三木ひろみ(2002)：「好き」と「嫌い」の心理学　体育科教育 50(3)：pp. 18-21